

2026年 3月18日



報道関係者各位

ヨコハマ海洋市民大学実行委員会

ヨコハマ海洋市民大学2025年度講座第10回
「ハマったさん、ヌマったさん いらっしゃい
～次なる航海前のほぼほぼ打ち上げ」を開催しました！
2026年3月5日(木)【象の鼻テラス・横浜市中区】

ヨコハマ海洋市民大学実行委員会は、令和8年3月5日(木)に横浜の海が抱える社会課題の解決に挑戦する市民を養成する、ヨコハマ海洋市民大学2025年度第10回講座「ハマったさん、ヌマったさん いらっしゃい ～次なる航海前のほぼほぼ打ち上げ」を開催いたしました。このイベントは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



イベント概要

- ・ヨコハマ海洋市民大学実行委員会は「横浜の海が抱える社会課題を自ら考え、解決できる市民(海族・うみぞく)」を育成するヨコハマ海洋市民大学2025年度講座の第10回目を開催した(年10回開催)。

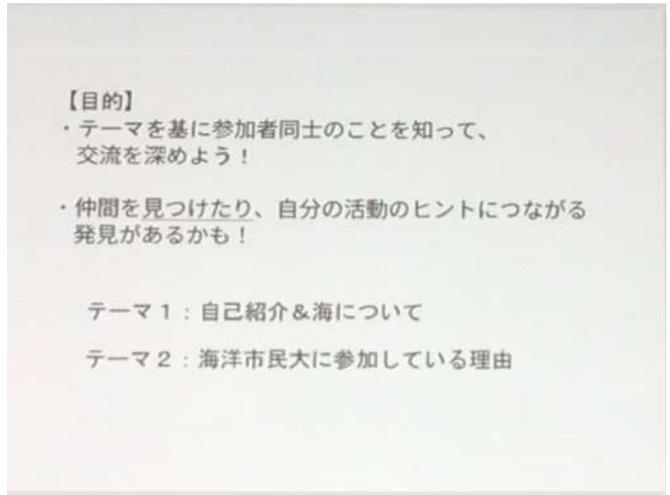
- ・開催日時: 令和8年3月5日(木) 19:30～
- ・開催場所: 象の鼻テラス(横浜市中区)
- ・参加人数: 37名(会場受講生19、オンライン受講生10、講師1、ゲスト・スタッフ1、実行委員6)
- ・共 催: 海と日本プロジェクト
- ・後 援: 横浜市・海洋都市横浜うみ協議会

最終回はワークショップ形式で

本講座は、ヨコハマ海洋市民大学の 2025年度最終回として開催されました。通常の講演形式から一転、受講生同士の交流と相互学習に焦点をあてた「ワークショップ+打ち上げ」として実施しました。



ウェルカムボード



今回の目的は...

自己紹介&海について

大嶋実行委員により、本ワークショップの目的について以下のように説明がありました。「今回の主な目的はお互いのことを知ること」です。

ヨコハマ海洋市民大学ではいつも海のことを知ってもらうための講座を作っていますが、意外と受講生同士がお互いのことを知らなかったり、顔見知りでも「どういうことをやってる人なのか」「どういう思いで参加しているのか」といったことを話す機会が少ないということを課題に感じていました。そこで最終回のこの機会にグループ討論を実施することにしました。



参加者のF川さんは「海が好き」という共通点と、グループ内でヨットに乗っている方々の存在を発見。三宅さんはパラセーリングのボランティアをされており、古川さん自身も「ただ乗ってフラフラしてるだけ」とユーモアを交えながら紹介されました。

次のグループ N村さんから「多種多様な、参加者の多様性に注目している。また人と人とのつながりを通じた参加が共通点として挙がり、海が近くにあるけど、実は大切にしなければいけないということをしらなかったという発見が印象的だった」と言う発表がありました。



O形さんは横浜生まれ横浜育ちで、仕事の関係で離れていたが、2年半前に戻ってきた、ここでは開港の歴史から灯台、テトラポッド、漁港市場と毎回異なるテーマで学ぶことができたに参加の楽しさを語りました。グループとして野島ビーチのクリーンアップが共通のテーマとして浮かび上がり、継続参加への意思を表明されました。

I宮さんのグループからは「共通点がなかなか見いだせず…」という率直な意見が出ました。その中でもヨット、深海生物、海ゴミの問題へと会話が広がり、エビフライなどの海の食べ物について語り合うなど、「好きなところで話を広げた」と総括されました。

A沢さんのグループでは、港湾業務経験者のIさん、埼玉から横浜に憧れて移住したSさん、元町出身で東京勤務のA沢さんがディスカッションを進めました。「横浜にいるんだけど、東京で仕事をしている間のヨコハマが自分の中で全く抜けている」というA沢さんの悩みから、船劇場や船の中の美術館といった創造的なアイデアが生まれたということでした。



【ステップ】

1. 各自自分のことをまとめる (1~2分)
2. グループ内で自己紹介&海に関するテーマで、共通点を見つけてください (5~7分)
3. ヨコハマ海洋市民大学へ参加している理由を話し合っ、共通点を見つけてください (5~7分)
4. どんな共通点があったのか発表して共有します
5. ヨコハマ海洋市民大学に参加して、自分の中で変わったこと、をグループ内でお話してください
6. シートに、「小さな宣言」を書いてください

受講によって自分のなかで変わったことと小さな宣言

S藤さんは「埼玉の海なし県から、港が見たいという思いで横浜に移住した」と説明。今回の小さな宣言では会社に配属された若い社員たちに港の見える丘公園のレストランやハンマーヘッドのキーズガーデンをすすめたり、さらにはこのエリアのチェーン店での食事には料金は全国一緒なのに、さらにみなとみらいの風景がついてくる！などの楽しみを通じて「横浜の魅力を伝える布教活動をしていく」と述べられました。

グループ討議に参加していたN島委員は「やれることはやる」という宣言を掲げ、「先がそんなに長くはないので、今のうちやれることはやった方がいい」という、やや自虐的な宣言をし周囲を笑わせていました。そうです、先送りしないことが大事です（確定申告の時期ですしね）！しかし、ここで司会の川名委員より「もっと海のこと、宣言してください！」と楽しい突っ込みが入りました。

山下ふ頭への親水公園建設を目指すA澤さんからは、「海の水も綺麗になって、ここにいる方たちが海遊びができるようになったらいい」という楽しそうなビジョンが示されました。

ハマブリッジ濱橋会で活動するK林さんは、自分たちの活動の浸透不足を課題として挙げるとともに「推しの生き物を見つけて、その生き物のいる環境を自分事として考えていきたい」と語りました。

N崎さんは「弱気になったら海を見る」という宣言をし、落ち込みやすい自分の性質に向き合い「元気があれば何でもできる」という信念で前に進むと語っていました。

新村委員は「海が好きで海ばかり見ていたが、N村先生の話聞いて、もっと内陸にも目を向けてみようと思った。今年は川や山など内陸に目を向けてみたい」と語り、視点の拡張を示されました。

ワークショップを担当した大嶋委員が、なんと！ぜんぜん海と関係ない「早く起きる」という小学生のような宣言をし、川名委員からお叱りを受け会場は笑いに包まれました。

最後に司会の川名委員から「毎日海に行くのは金木委員長がやっているの、自分は住んでいる茅ヶ崎で『海を触る・アーシングする』」ことが目標だと宣言しました。

修了証授与式



ヨコハマ海洋市民大学では年間の出席率70%を超える受講生に修了証を差し上げています。これは私たち実行委員が目指している海洋教育デザイナー「海族(うみぞく)」としての第一歩を踏み出した証でもあります。たとえ年間10回の講座であっても、平日木曜日の夜に仕事や遊びの予定を入れず通ってくるのは案外大変です。「行けたら行く」というスタンスではこの70%はクリアできません。1年間、ご自身の生活を海に向けて舵を切り、生活そのものをデザインしないと達成できないのです。その海洋教育デザイナーとしてのスタートを祝うための修了証です。

参加者の声

- ・受講生同士の交流はとてもたのしかった
- ・実行委員がぜんぜん海に向いていないちいさな宣言だったのがおかしかった
- ・自分自身のちいさな宣言を大切に実行したい

<団体概要>

団体名称 :ヨコハマ海洋市民大学実行委員会

URL : <https://yokohamakaiyouniv.wixsite.com/kaiyo/>

活動内容 :横浜市民が横浜の海が抱える社会課題を自ら考え解決に向けて行動できる海族(うみぞく)になるための養成講座を年10回(コロナ禍以前は年20回)開催している。座学だけではなく実際に海や海を学べる野外講座も開催している。



日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

<お問い合わせ先>

団体名:ヨコハマ海洋市民大学実行委員会

担当者名:実行委員長 金木伸浩(かねきのぶひろ)

メールアドレス:yokohama.kaiyo.univ@gmail.com